

定例市政記者クラブ・市長懇談会（12月）の結果について

日時 平成24年12月3日（月）午前11時～午前11時40分
場所 市役所部2階第3委員会室
出席 市政記者クラブ9社

会見内容

1. 話題提供（5項目）

1. 外国人観光客に対する冬道の注意啓発について

- 去る11月23日に釧路管内で発生した交通事故により亡くなられました台湾政府文化部の張 瓏(チョウ・ロウ)さんはじめ3名の方々に謹んで哀悼の意を表したいと存じます。
- 台湾との交流推進を積極的に進めている釧路市といたしましては、この度の交通死亡事故は痛恨の極みであり、大変重く受け止めております。
11月26日には北海道外国人観光客ドライブ観光促進連絡協議会が繁体字・簡体字・ハングル・英語の4か国語で作成した冬のドライブの心得のパンフレットを市内のレンタカー会社やホテルなど観光関係事業者に送付し、冬道の安全運転を外国人観光客に呼びかけるよう協力要請するとともに、同パンフレットを市ホームページの多言語のページに掲載いたしました。
- また、釧路総合振興局を通じて、同様の取組を全道に呼びかけたところであり、12月4日には、北海道、北海道開発局、北海道運輸局など関係行政機関へ、改めて外国人に対する冬道の事故防止に向けての注意喚起について、申入れを行う予定になっております。
- このほか、11月30日には、釧路地区レンタカー協会に対し、釧路警察署、釧路観光協会、並びに阿寒観光協会まちづくり推進機構とともに、事故当時の状況などを説明し、特に降雪のない地域からの観光客の皆様へ、今一度の注意啓発を呼びかけるよう協力要請したところであります。
- 今後とも、関係機関が情報共有に努め、冬期間においても安全に釧路観光を楽しんでいただけるよう、種々取り組んでまいりたいと考えております。

2. 冬季の市有施設の節電の取組みについて

- 北海道の今冬の電力需給につきましては、596万キロワットの供給力が確保され、需要は563万キロワットと見込まれることから、供給予備力は33万キロワット

ットと 5. 8 パーセントを確保できる見通しで、計画停電は回避されることとなっております。

しかし、大規模な発電所トラブルなどがあった場合に、対応するための重要な対策として、政府、北海道、北海道電力から平成 22 年度比 7 パーセント以上の節電が要請されております。

- 釧路市としましては、万が一の場合における、市民生活や地域経済への影響を考慮し、各施設における節電に取り組むことといたします。

節電期間は、12月10日から3月8日の土日、祝日、年末年始を除く平日とし、7 パーセント以上を目標に節電に取り組みます。

- 取り組み内容は、夏の節電と同様の①パソコンのエコ設定、②照明の間引き・LED等高効率照明への交換、③電気ポットなど電熱機器の使用抑制、④エレベーターなど動力設備の一部停止、⑤ノー残業デーの拡大や待機電力の節電などのほか、⑥今年度実施したインバーター導入などの省エネ改修の効果が見込まれます。⑦ロードヒーティングにつきましては、幹線道路の車道部の通行は確保しますが、路肩部については停止しますので、走行車線を守っていただくようお願いいたします。

- これらの取り組みの効果は、平成 22 年度の冬季と比較して 7. 9 パーセントの節電となると見込んでおります。

冬季の節電ということで、夏季とはちがった難しい面がありますが、万が一に備え取り組んでまいりたいと考えております。

- また、広報くしろなどで市民の皆様にも節電を呼びかけており、釧路市全体で節電に取り組んでいきたいと思っております。

- なお、市有施設の夏の節電につきましては、9. 7 パーセントの削減を達成いたしました。

冬季も同様に目標達成を目指し、市民の皆様にもご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をいただきながら、節電に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

3. 平成 25 年度臨時費予算 元気創造枠（職員提案事業）について

- 本事業は、昨年度の予算編成より市役所改革プランの位置付けのもと事業制度を創設し、域内循環と雇用・人材育成のテーマで実施し、庁内各部の職員からの積極的な提案が図られ、13 事業を採択、本年度実施しているところであります。

- 平成 25 年度の「元気創造枠」（職員提案事業）につきましては、予算編成方針に基づき、引き続き実施することとし、11月22日、23日の両日で、プレゼン

テーション審査会を実施し、事業を決定いたしました。

- 今回は、都市経営戦略プラン（政策プラン）の4つの実践ビジョンをテーマとして設定いたしました。1つは、地域資源の価値を高め域内循環させる地域経済、2つ目に地域を担う人材の育成と雇用、3つ目にみんなが安心して暮らせる都市づくり、4つ目として世界に開き東北北海道をつなぐ戦略的拠点都市であります。
- 提案職員のプレゼンテーションを受け、その内容について審査を行った結果、採択件数は最終的に22事業（新規16件、継続6件）となり、提案事業費総体で143,876千円となっております。なお今後の予算編成の中で事業内容及び予算額の査定、調整を行うこととしております。
- 今回の審査会は、市役所改革プランの考え方に沿って公開で実施するとともに、職員研修に位置づけることにより提案職員以外の傍聴を可能としたところであり、職員相互の刺激、意識啓発につながったものと考えております。
- 提案を受けた私自身の感想であります。今回は提案件数が去年の1.5倍にあたる31件あり、2日間、約10時間におよぶプレゼンテーションでありました。1人10分間の限られた説明時間でありましたが、各課職員とも厳守し、自ら調べたデータに基づきコンパクトで要領を得た説得力のある内容でありました。
- 私は、31件すべての提案に対して質問しましたが、緊張感をもって答える中でも、明瞭な説明が多々見られ、こうした対話の成果として予算が組み上がることのプロセスが、地域の課題解決の第1歩であることを感じました。また、昨年採択とならなかったものの自らのリトライをパフォーマンスする個性ある職員もおり、時にユーモアを感じる場面もありました。
- 厳しい財政状況ではありますが、今後とも釧路市の持つ資源、特性を最大限に生かしながらプラス成長を目指していくため、政策プランを推進する事業の構築に努めてまいりたいと考えております。

4. 長期滞在の取り組みについて

- 先日、北海道から発表されました北海道体験移住ちょっと暮らしの平成24年度上半期分の実績におきまして、釧路市が滞在人数173人、延べ滞在日数6,396日で、2年連続全道第1位になりました。
- 第2位の紋別市（滞在人数89人、延べ滞在日数2,141日）と比べましても、滞在人数でほぼ倍、滞在日数で3倍の実績となりました。

- これもひとえに受入れの最前線に立たれている地元事業者の皆さん、長期滞在のお客様に快く接していただいている市民の皆さん、さらには、釧路市の取り組みを全国に発信いただいております報道各位の皆様のお蔭で、釧路の夏の涼しさが浸透してきた結果と考えております。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。
- 釧路市におきましても、上半期で昨年1年間の実績（滞在人数124人、延べ滞在日数4,913日）を上回る結果となり、大変誇らしく思っております。
- 一方で、涼しい釧路が浸透するにつれて、釧路市での滞在を希望される方々からのお問い合わせが増えておりますが、滞在可能な施設が増えるペースを上回る状況で、多くのお客様が未だ快適な避暑生活を体験できない状況が続いております。
- 引き続き、長期滞在施設の増加に向けて、くしろ長期滞在ビジネス研究会をはじめ、長期滞在事業にご理解を示していただいている関係事業者の方々と連携して、新たな滞在施設の増加策を講じていきたいと考えております。
- また、職員提案で示されましたが、冷涼な夏季に限らず、スギやヒノキの花粉がほとんどなく、降雪が少ないという地域特性を呼び水としてPRし、冬季間の滞在需要の掘り起こしを行ってまいります。
- 冬季間のPR強化を図り、年間を通じて釧路の魅力を伝え、多くの長期滞在のお客様にお越しいただき、長期滞在事業が不動産業、観光業はもとより、飲食店、生活必需品の販売店など、多くの業種に波及していく取り組みを行ってまいりたいと考えております。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 長期滞在についてお聞きします。スギ花粉が少ないということをPRすることですが、データや裏付けはあるのですか。

(交流推進主幹)

- ・ 環境省にスギ花粉の飛散量に関するデータがあり、その中に道内他都市のデータがあるのですが、釧路市のデータがないことから環境省へ確認したところ、「釧路市にはスギ・ヒノキの植生がないため、データもない」ということでした。

(質問)

- ・ 夏の涼しいくしろで避暑生活のようなキャッチコピーはあるのですか。また、この取り組みはこの冬から新たに始めるということですか。

(交流推進主幹)

- ・ キャッチコピーは「花粉0（ゼロ）の快適空間」としております。過去にスギ花粉を回避したいというお客様が滞在されたことはあるのですが、これまで冬の長期滞在のPRは積極的に行ってこなかったこともあり、今後は冬の集客につながるよう、キャッチコピーを含め、精力的にPRを進めたいと考えております。本州では2月にスギ花粉が発生することから、来年の2月を目指して、すでにPRを開始しているところですが、今後さらに強化していきたいと考えております。

(質問)

- ・ スギ花粉がないことがPR材料になるということに着目されたきっかけを教えてください。

(交流推進主幹)

- ・ 涼しくしろで避暑生活の取り組みを通して、お客様からそういった声をいただいていたという背景のもと、先の元気創造枠における職員提案の中で、スギ花粉がないことを冬場のPR材料として誘客してはどうかという提案があり、取り組むことといたしました。

(市長)

- ・ 例えば出張で釧路市に来られた方にアピールする等、そういった機会を活用していきたいと考えております。

(質問)

- ・ 北海道では白樺花粉はあったと思いますが。

(交流推進主幹)

- ・ 白樺花粉はあります。釧路では4月以降に白樺花粉が発生しますので、本州におけるスギ・ヒノキ花粉のピークである2～3月に、スギ花粉回避のための長期滞在をしていただきたいと考えております。

道内でも札幌圏ではスギ花粉がありますが、釧路にはありませんので、道内の中でも強みを生かした取り組みができると考えております。

(市長)

- ・ 花粉症の方からすると、例え数日間でも花粉症から逃れられるのは魅力的だと伺っておりますので、しっかりとPRさせていただきたいと思います。私も各面で話しております。